

電子会議室を用いた地域データベース作成に関する研究—ええとこ滋賀探検隊の実践—

Characterization of Process of Constructing Regional Database using Electronic Conference System

— Focused on the Progress of a Conference named "Eetoko Shiga Expedition" —

○樋口幸永¹

近藤隆二郎²

Sachie Higuchi

Ryujiro Kondo

ABSTRACT: The purpose of this paper is to clarify the possibility and the effect of constructing regional database using electronic conference system. We analyzed the participants' writings of an electronic conference named "Eetoko Shiga Expedition" in which they had tried to collect the information of things and places which they assured that they were worth recommending in Shiga Prefecture. As a result, it did not yield perfect data accumulation because some of the information which the participants had submitted included casual thinking or misunderstandings. But participating in the conference to accumulate regional data promotes them to think not only the things and places themselves but also their surroundings deeply. We found that it is important for the coordinator of this kind of conference to evolve the topics intentionally to keep their eyes on the conference and it might be beneficial as a tool of raising environmental consciousness of citizen.

KEYWORDS: *Internet, Electronic Conference, Regional Database, Environmental Consciousness*

1. はじめに

1.1 研究の背景

2000年4月施行の地方分権一括法によってますます増大する地方行政の負担を軽減し、効率的な行政運営を行う一助として、IT(Information Technology)を活用した行政基盤づくり、すなわち「電子自治体」構築に取り組んでいる地方自治体は多い。また、この法律によって、地方自治体は地域住民の意見を取り入れたまちづくりを進める必要に迫られ、そのツールとしても、ITを利用するところが増えてきている。

一方、住民の間では、目に見えて悪化する社会環境に危機感を抱き、社会の公共的な役割をすべて行政に期待せず、福祉や環境、教育などの身近な問題を自分たちで解決しようとする NPO やボランティア団体の活動が活発になってきている。

その結果、これら行政と住民の「協働」によるまちづくりへの機運が高まり、そのツールのひとつとして、電子会議室が使用されつつあるのが昨今の動向である。

滋賀県においても、2001年9月、県と(財)滋賀総合研究所が、ITを活用した政策提案システムの構築に向けた実験として、4つの会議室を持つ「e〜まち滋賀 2001 インターネット政策広場」を開設、2002年1月まで運営を行なった。今回の研究対象である「ええとこ滋賀探検隊電子会議室」(以下、「ええとこ」会議室)は、このうちのひとつ「滋賀のええとこ再発見〜滋賀発地域学の提唱」を継承する形で、2002年8月13日に開設された。このとき、会議室の所属は(財)滋賀総合研究所主催の「e〜まち滋賀 2002 インターネット政策広場」¹ (以下、「e〜まち滋賀」)のまま変わりはないが、政策提案の場としての「実験台」的性質は希薄となった。運営も住民有志によるものであり、「地域データベース作成」という共通目的のもと、住民レベルで新たな電子コミュニティを形成しようとするものであった。

1.2 研究の目的

この会議室の目的は、「滋賀の隠れたいいところ(=「ええとこ」)を発掘・発信しよう」というものであった

¹ NPO 法人びいめ〜る企画室 B-mail Planning Inc. N.P.O.

² 滋賀県立大学環境科学部 School of Environmental Science, University of Shiga Prefecture

が、「ええとこ」会議室の発言者がこの会議室へ持ち込んだ場所やことがらのうち、特に多くの情報が寄せられた地域資源は、一般的(全般的)な「ええとこ」というよりも、「あまり知られていないもの」「よくわからないもの」の情報がほとんどという予想外の結果を得た。この会議室で発掘された地域資源、それらの特色、地域資源に対する発言者の思い、そして発言行動に起因する発言者たちの意識変化は、まちを見直す、まちの問題点を見出す、という点において、今後のまちづくりや環境保護活動の重要な素材になると思われる。各個人それぞれのまなざしで見た「ええとこ」の情報と、発言者のキャラクターを単純・クロス集計し分析することで、これらの場所が、なぜ「ええとこ」として浮かび上がってきたのかを解明する。

半年余りの電子会議の中で、発言行動に一連の「流れ」があることが見出せた。地域にとって有益な情報収集を行うための電子会議室において、会議参加者の発言内容推移になんらかの法則があることがわかれば、地域データベース作成のための電子会議室においてのみならず、今後ますます増えるであろう、住民間、あるいは「行政-住民」間の電子会議室運営者にとっても、有効な運営システムを提案できるのではないかと考えた。

また、電子会議室運営という点では、「ええとこ」会議室は、「e〜まち滋賀」の中で最も書き込み数が多かったことに注目したい(表1)。多くの有効な情報を得るための運営者側の工夫を評価するとともに、その限界(点)を探る。

2. 「ええとこ」会議室の特色

「ええとこ」会議室が所属している(財)滋賀総合研究所主催「e〜まち滋賀」は、①電子コミュニティの円滑な形成、②電子コミュニティによる政策提案と参加者間の合意形成、③電子コミュニティと地域コミュニティとの融合による地域のまちづくりの活性化、という3つの目標をかかげて、2002年7月に開設された電子会議システム²である。

「e〜まち滋賀」は、話し合うテーマ内容によって3つに分類される。「けんとねっと」は、行政が抱える課題について広く住民から意見を募り、最終的に政策立案しようとする会議室、「みんとねっと」は、住民側が感じている滋賀県全体の地域の課題について、住民や行政の意見を聞きながら、仲間を募ったり情報交換したりして市民活動を盛り上げていこうとする会議室、そして「わいわいひろば」は、誰もが自由なテーマで自由に書き込める会議室である。

「ええとこ」会議室は、このうちの「みんとねっと」において、8月13日に開設された。Web上に掲げられた「会議室の主旨」と「会議室での主な話題」は別表のとおりである(表2)。

表1 「e〜まち滋賀」における発言数比較

会議室名	開設日～2/28 (総日数)	期間内 書込数	1日当り 書込数
葉の花プロジェクト	8/1～ (212)	85	0.4
びわこかもかも亭	8/9～ (204)	1028	5
ええとこ滋賀探検隊	8/13～ (200)	2482	12.4
Waiwai 子育て	10/4～ (148)	92	0.6
夢〜舞めんと滋賀	10/21～ (131)	34	0.3

表2 「会議の主旨」と「会議室での主な話題」

■会議の主旨

私たちの住む滋賀に、お気に入りの場所ってありますか？そこに居るだけで気分が落ち着く場所、夜景の素敵な場所、大切な人と過ごしたい場所…。さらに、人、物、味(食べ物)、言葉、音…、などなど、ここはそんな滋賀の「ええとこ」や「ええもん」を、みんなでわかちあう会議室です。

歴史と自然に恵まれた滋賀県には、まだまだ私たちの知らない「ええとこ」がたくさんあるはずです。県外から引っ越してきた人たちから見えて新鮮に映った滋賀の「ええとこ」、滋賀で生まれ育った人がこっそり教える隠れた「ええとこ」、こうした情報を相互に伝えあう「井戸端会議」のような雰囲気で行進していきます。

「ええとこ」探しをすることで、自分の住む地域のすばらしさに気づき、「ええとこ」を活用した地域の活性化に目を向けるようになる、さらに、地元のみならず(県内外問わず)他の地域の「ええとこ」情報にも目を向け、意識することで、客観的な目も養われてくるはずです。

滋賀に住んでいる方はもちろんのこと、滋賀にきたことがある方や行ってみたいと思っている方、誰でも気軽に会議室に参加してくださいね。きっとあなただけの「とっておきの場所」が見つかりますよ！

■会議室での主な話題

1) あなたのオススメの滋賀の「ええとこ」は？—情報提供

どうしてそこが好きなのか？理由と共に情報をお待ちしています。「今では考えられないけど昔はこんなだった」なんて場所、「なんでこれがここにあるの？」なんてモノ、ちょっぴり奇異でマニアックなスポットなどの情報も大歓迎です。そこには意外な歴史的・地理的な背景があるのかも？滋賀の魅力にますますドップリと「はまり込む」はずです。

2) 「ええとこ探検隊」出動！—オフ会の提案

面白そうなスポットが出てきたら、百聞は一見に如かず、オンライン会議では味わえない実物を体感して、感動を共有しましょう。「ええとこ巡り」や「ええもん持ち寄り会」を開催して、滋賀を「とことん」探検&探究していきます。

3) 集めた情報をどうしよう？—デジタル情報化とその活用

今までにはない、とっておきの「滋賀のええとこデータ&マップ」をCD-ROM化して、「シガダス(仮称)」を作る予定です。今を生きる私たちがとらえた滋賀の「ええとこ」情報を、次世代へと保存・継承し、新たな創造を生み出す原動力にするには？その方法やアイデアを共に考えていきましょう。

会議室には世話人(コーディネーター)が設置され、会議の進行役を果たす。著者らは開設当初からこの世話人を担当した。発言者は、「e〜まち」に名前や住所等の登録を義務付けられているが、会議上ではハンドルネームの使用が可能である。

発言は文字データが基本で、画像とリンクの添付も可能である。発言者の任意で「発言する」を選択して発言すると「先頭発言」となり、その話題に続けて関連発言したい場合は「返事を書く」を選択して発言すれば、「先頭発言」に続けて、「スレッド」として表示される仕組みである。

今回の分析対象期間(2002年8月13日～2003年2月28日)中、「ええとこ」会議室の書き込み総数は2482件、1日平均約12.4件の発言があったことになる。期間内の発言者は36名(男20名・女12名・不明4名(性別は公開されておらず、書き込み内容から判断不可能))であった。

電子会議室コミュニティで一般的に行われるオフライン・ミーティング(オフ会)は、この期間内に3度行われた(表3)。加えて、①特に発言数の多い者には、キャラクター画像を進呈という特典をつける、②「オン会」³開催など、世話人の創意によって、「e〜まち滋賀」の他の会議室にはなかった仕掛けがなされた。

3. 研究対象と分析方法

3.1 分析対象

分析対象期間中に書き込まれた情報のうち、次の条件を満たすものを分析対象として抽出した。

- ①(滋賀に関して特筆すべき)「ええもの」「ええこと」として取り上げていて、対象物とそれに関するなんらかのコメントのあるもの(例「穴太積の石の碎石場はすごいです」)
- ②コメントがなくても、その対象物に対してこの会議室上で初めての言及されたもの(例「城といえば、安土城跡もありますね」)
- ③「対象物」の名称が不明・あいまいなものは除く(例「うちの裏山になんとかという穴があります」)

発言者によっては、ひとつの書き込みの中に、2つ以上の「対象物」を取り上げる者が一方で、単なる

表3 オフ会開催日・場所・参加人数

10月13日(土)～14日(日)	甲賀地域	10名
11月16日(土)～17日(日)	湖北地域	12名
12月22日(日)	彦根市	10名

表4 対象物の分類項目

カテゴリー	分類	数	%
自然	湖、植物、動物、山、滝、木、川、水、洞窟、動物、石	96	11.2
食べ物	食べ物、飲食店	85	9.9
遺産	城、寺、神社、石段、旧跡、戦禍、廃墟	72	8.4
まちの風景	風物詩、オブジェ、ながめ、表示	68	7.9
ことば	地名、店名、方言、キャッチコピー、飲食メニュー	60	7.0
創造物	オリジナルキャラクター、ゲーム、歌、本	60	7.0
交通	交通手段、湖上交通、鉄道、駅、道、サイクリング、トンネル	56	6.5
人	人、団体、有名人	50	5.8
建物	建物	45	5.2
観光	土産、道の駅、顔出し看板、娯楽施設	38	4.4
仏像	仏像、石仏、写し巡礼	35	4.1
まち	まち、色事、地下街、島	35	4.1
イベント	イベント、プロジェクト	33	3.8
祭	祭	30	3.5
わざ	わざ、職人芸	22	2.6
文化	文化、風習、楽器	20	2.3
施設	公共施設、博物館、宿泊施設、図書館	18	2.1
五感	五感	18	2.1
近代化遺産	産業、機械、ダム、近代化遺産	18	2.1
合計		859	100.0

表5 捉え方の分類項目

カテゴリー	内容	数	%
知っていた	ずっと以前から知っていたこと、体験したことあること「～です」	429	50.0
見た	見たことある、あえて見たこと・体験したことある報告、「見たことある」「見てきた」	86	10.0
調べた	インターネットや本であえて調べてみた、詳しい人に「聞いた」	82	9.5
聞いた	見たことないけど、聞いたことある、耳にした、テレビ・新聞で「見た」(実物は見ていない)	77	9.0
気がする	憶測「と思うのですが」「だった気がします」	61	7.1
食べた	食べたことある、食べたことの報告	31	3.6
提案する	「～はどうでしょう」「したりとか？」	25	2.9
驚いた		25	2.9
どうかかな?	不確実、自信ない意見	21	2.4
確信する	自分の中で確信している「～です」	14	1.6
したい	したい、見たい、行きたい、ほしい、などその対象物への興味	8	1.0
合計		859	100.0

相槌のみの発言も多く、必ずしも1つの発言から1つの分析対象が取り出せるとは限らない。上述のとおり分析対象期間中発言したのは36名であるが、「ええとこ」情報が抽出できなかった者(1名)も存在した。

以上の方法で、859個の分析対象情報(以下、「ええとこ情報」と)と、35名のキャラクターを分析対象とした。

3.2 分析方法

「ええとこ情報」について、4つの分類項目を設定した。対象物分類(表4)、情報の捉え方(表5)、対象物の存在する地域(表6)、そして、対象物の存在する時代(表7)である。このうち、「情報の捉え方」は、発言者がその対象物に対して、どのように向き合ったことを報告しているのかを見出すために、また、「時代」は、発言者が対象物のいつの時代の存在を意識しているかを知るために有効と考えた。特に発言全体を眺めたときに、単純に過去にあったもの(こと)を偲ぶのではなく、「現在は○○な姿で残っている」といった、過去からある程度の時間を経て現在に至った過程やその変化の状況についての情報も多かったため、「現存」という項目をあえて設定した。

また、859個の「ええとこ情報」のうち、対象物に対する印象や感想を述べたものは291個あった。「ええとこ」とはいえ、否定的な感想を述べている発言や、「こうあってほしい」といった対象物に対する「願望」を述べている発言動向に着目しなかったため、表8にある分類項目により分類した。

「発言者」に関しては、わかる範囲で「出身地」で分類した(表9)。

以上のデータをもとに、単純・クロス集計して分析した。

4. 分析結果

4.1 発言者の特色

すべての情報859個のうち723個(85%)を、発言の多い上位10名(A~J)で占めている。そこで、発言者の特色は、これら10名に絞って分析した(表10)。A、C、D、Fはそれぞれの居住地の情報が多いが、これは、彼らがその土地に長く住んでいるためと考えられる。情報を意識的に出そうとするAとC、「調べた」情報の多いJとIにはそれぞれ対象物に対する感想や思いを書くことが少なかったが、BとEは情報とともに、かなり

表6 地域の分類項目

地域	市町村	数	%
湖南	大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲町、中主町	207	24.1
湖北	長浜市、米原町、近江町、山東町、伊吹町、びわ町、虎姫町、浅井町、湖北町、高月町、木之本町、西浅井町、余呉町	225	26.2
湖東	彦根市、多賀町、甲良町、豊郷町、愛知川町、秦荘町、湖東町、愛東町	57	6.6
湖西	志賀町、高島町、安曇川町、新旭町、今津町、マキノ町、朽木村	50	5.8
中部	近江八幡市、八日市市、能登川町、安土町、五個荘町、竜王町、蒲生町、日野町、永源寺町	100	11.6
甲賀	信楽町、石部町、甲西町、甲南町、水口町、甲賀町、土山町	72	8.4
県全域		124	14.4
県外		24	2.8
合計		859	100.0

表7 対象物の存在する時代の分類項目

時代		数	%
過去	過去にあったことに重きを置いている	71	8.3
現存	今も残っていることに重きを置いている	71	8.3
現在	現在あるもの	686	79.8
未来	未来への提案など	31	3.6
合計		859	100.0

表8 感想・印象語の分類項目

カテゴリー	表現語句	数	%
好意的感想	すてき、すばらしい、いい、えもいわれぬ、面白い、楽しい、おいしいなど	161	55.3
驚嘆	たまらん！ かなりきてる、まさか、へえ、なんでやねんなど	30	10.3
不可解さ	不思議、謎です、まったくわからない、なんだろう、？です	15	5.2
願望	行きたい、乗ってみたい、入ってみたい、食べたい、残ってほしいなど	15	5.2
奇怪さ	恐ろしい、怪しげ、不気味、怖い	13	4.5
懐古感	レトロ、サイケ、懐かしい	7	2.4
珍稀さ	珍しい、希少	5	1.7
遺憾	残念	5	1.7
否定的感想	すきじゃない、田舎くさい、使いたくない	3	1.0
知名度	有名、結構マイナー	3	1.0
大きさ	とても大きい、巨大	3	1.0
寂寥感	わびしい、寂しい	2	0.7
あいまいな感想	行きたいようないきたくないような、ほほう	2	0.7
その他		27	9.3
合計		291	100.0

表9 発言者居住地

居住地	人数	%
湖南	12	34.3
湖北	3	8.6
湖東	3	8.6
湖西	2	5.7
中部	3	8.6
甲賀	2	5.7
県外	4	11.4
不明	6	17.1
総計	35	100.0

具体的な感想を述べるが多かった。「沖の白石、私も最初に見た時の印象が忘れられません。すごく静かな秋の晴天のもと、夕陽が赤く照らしていました。背景は茫茫たる紺色の琵琶湖と空。その景色を斜めに切り裂いて飛んでいった1さでしょうが、のっ、と立ち上がって、どれくらいの年月あの場所にいるのでしょうか。」「(11月9日・E)羽の鵜。声も悲しげでした。湖面にたたずむ孤高の姿はえもいわれない光景ですね。あのあたり、湖底だっけかなりの深さでしょうが、のっ、と立ち上がって、どれくらいの年月あの場所にいるのでしょうか。」「(11月9日・E)

表 10 発言者の特色

発言者	性別	年代	居住地	情報量	特色
A (世話人)	女	30	湖北	197	「湖北」に関する情報が圧倒的に多い。「食べ物」「ことば」に関する情報が一番多い。「知っていた」「聞いた」「気がする」など、既知の情報が多数。逆に「したい」「確信する」など、対象物に対する深いかわりを望む表現がない。
B (世話人)	男	30	湖東	180	「湖西」以外は比較的まんべんなく情報を出している。「遺産」「仏像」「イベント」「観光」「五感」に関する情報が一番多い。「見た」「調べた」「提案」「したい」「どうかな?」「驚いた」は情報量の一番多いAより多い。感想や印象を述べるのが、Aよりも多い。特に「驚嘆」「不可解さ」「願望」はそれぞれ一番多い。
C	女	30	中部	76	対象物は、「中部」の「まちの風景」が圧倒的に多い。半分以上が「知っている」ことの報告。発言は、1月・2月のみにもかかわらず、情報数は3番目に多い。
D	女	50	湖南	74	「湖南」のことで、「知っている」情報がほとんど。
E	女	40	湖南	42	感想・印象を述べる割合が一番多い。本やオブジェなど「創造物」に関する情報が他者に比べて一番多い。
F	男	50	湖西	40	「湖西」に関する情報が他者に比べて一番多い。新規に対象物を持ち出す割合が一番大きい。
G	男	50	湖南	35	感想を述べる割合が一番少ない。「調べた」情報を出す割合が一番多い。
H	男	40	湖南	34	「仏像」に関する発言はBに次いで多い。
I	女	40	湖北	24	「調べた」情報を出す割合がGに次いで多い。新規に対象物を持ち出して発言する割合が一番少ない。
J	女	20	甲賀	21	発言数が少ない割に、新規の対象物を出す割合が多い。感想を述べる割合がEに次いで多い。

4.2 対象物の特色

表4が示すとおり、対象物のカテゴリーで最も多かったのは「自然」であるが、当然のように想像し得る琵琶湖や動植物、風景などを抜いて一番多かったのは、「石」であった。具体的には、『土倉鉾山』や『高師小僧』に関連する「鉾物」の類である。「ええとこ情報」は、普遍的な情報とは少し異なっている。

そこで、一般的な観光資源情報との比較を試みた。一般的な観光資源データ一覧『ふるさとシリーズ 誇れる郷土ガイド』⁴「滋賀の地域遺産データ」と比較してみると、「ええとこ情報」859個のうち、対象別になると584個のデータとなり(表11)、それと本データと比較すると、重複するものは27個(表12)、わずか4.6%であった。

以下は対象物と諸データをクロス集計した結果である。

(1) 対象物×捉え方(図1)

平均的に、「知っていた」「見た」といった既知の情報を報告する形が多いが、食べ物を「食べた」ことの情報、「まちの風景」を「見た」という情報、そして「仏像」に関して「調べた」という情報が多いのが特徴的である。

(2) 地域×対象物(図2)

「湖東」に「観光」が多いのは、オフ会で訪れた『佐和山遊園』に関する情報が多かったため、「甲賀」に「創造物」が多いのは、陶製たぬきの置物をはじめとする焼き物のオブジェに関する情報がこの地区で開催したオフ会の前後に集中したためである。また、「県内」の「創造物」は県のイメージアップのためのキャラクターを創造しようという提案が多かったため、「中部」の「まちの風景」はCによる2月の集中的な書き込みによる。

表 11 個別対象物に寄せられた情報数

情報数	対象物数	合計
1	453	453
2	78	156
3	28	84
4	6	24
5	9	45
6	4	24
8	1	8
9	2	18
11	2	22
25	1	25
合計	584	859

表 12 一般的な観光資源と重複するもの

琵琶湖、子鮎、田原総一郎、佃煮、信楽の火祭り、山王祭、びわ湖タワー、比叡山延暦寺、河内の風穴、「琵琶湖就航の歌」、琵琶湖就航の歌資料館、比叡山、多賀大社、日吉大社、焼もろこ、伊藤忠商事、西武系企業、烏丸せつこ、近江牛、岡林信康、鮎寿司、畑地区の棚田、安土城跡、万灯祭、沖島、大清水の湧き水、鴨すき

(3) 時代×対象物 (図 3)

「現存」で示されたものは、「仏像」「遺産」「文化」が多いのが特徴的である。

「未来」で特に多い「創造物」は、滋賀に関する歌やゲームや本などを「作れればいいな」と提案するものが多い。

(4) 対象物×感想・印象 (図 4)

特に対象物に対して感想や印象を語る度合いは34%(291/859)である。その

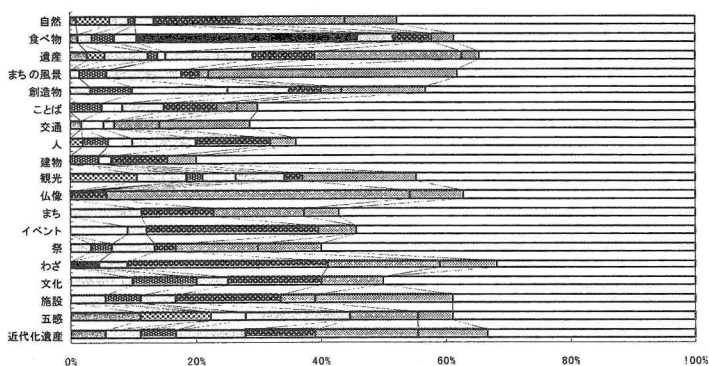


図 1 「対象物」別に見たええとこ情報の「捉え方」の傾向

□ 知りたい □ 確信する □ どうかかな? □ 驚いた □ 提案する □ 食べた □ 気がする □ 聞いた □ 調べた □ 見た □ 知っていた

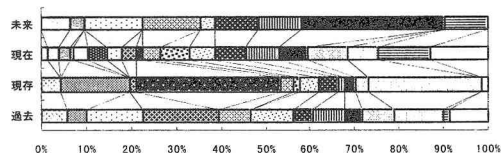


図 3 「時代」別に見たええとこ情報の「対象物」の分布傾向

□ 近代化遺産 □ 五感 □ 施設 □ 文化 □ わざ □ 祭 □ イベント
□ まち □ 仏像 □ 観光 □ 建物 □ 人 □ 交通 □ ことば
■ 創造物 □ まちの風景 □ 遺産 □ 食べ物 □ 自然

ほとんどは好意的な感想が一番多いが、特に県内外で活躍している「人」に対して「驚嘆」の感想を持つ割合が多い。「近江商人っていうと、東の方が思い出されますけど大溝の『小野組』は盛岡で活躍したんでしょ。両替商もしていたようですね。とにかく、近江の人ってすごい。」(9月25日・F) また、「まちの風景」に対して「不可解」という印象を持つ者が多いが、これは、オフ会や個人的にまちをめぐって見つけてきた不可解なものを示している場合が多い。「交通手段」に対する「奇怪さ」は、狭くて暗いトンネルに関してのものである。

(5) 時代×捉え方 (図 5)

「未来」に関しては、他の時代にはない「提案する」の割合が圧倒的に多い。これは「未来」に対しての当然の反応であると思われる。「現存」するものに対しては、「調べた」情報の割合が多い。今ある状況に興味を抱き、「調べる」という行為に及んだのであろう。

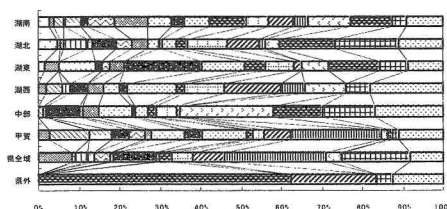


図 2 「地域」別に見たええとこ情報の「対象物」分布傾向

□ 近代化遺産 □ 五感 □ 施設 □ 文化 □ わざ
□ 祭 □ イベント □ まち □ 仏像 □ 観光
□ 建物 □ 人 □ 交通 □ ことば □ 創造物
□ まちの風景 □ 遺産 □ 食べ物 □ 自然

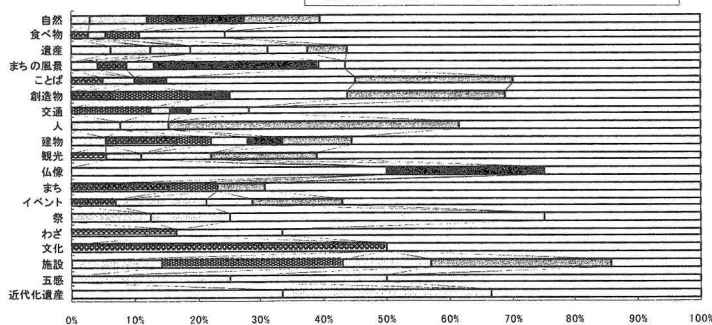


図 4 「対象物」別に見たええとこ情報の「感想・印象」の分布傾向

□ あいまいな感想 □ 寂寞感 □ 大きさ □ 知名度 □ 否定的感想 □ 遠隔 □ 珍奇性 □ 懐古感 □ 奇怪さ □ 難解 □ 不可解さ □ その他 □ 驚嘆 □ 好意的感想

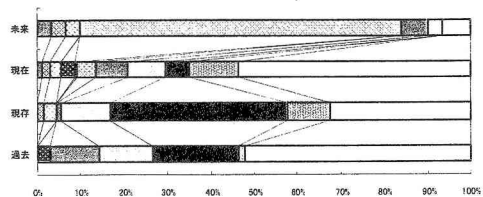


図 5 「時代」別に見たええとこ情報の「捉え方」の傾向

□ 知りたい □ 確信する □ どうかかな? □ 驚いた □ 提案する □ 食べた □ 気がする □ 聞いた □ 調べた □ 見た □ 知っていた

(6) 捉え方×感想・印象(図 6)

「知っていた」ものに対しては、さまざまな感想が寄せられている。これはその情報量が圧倒的に多かったということも理由であるが、最も客観的な姿勢で対象物に向かった結果ではないかと考えられる。「驚いた」には「驚嘆」が多いのは当然で、また、「確信する」に多い「好意的感想」からは、その対象物に対する発言者の強い愛着が感じ取れる。

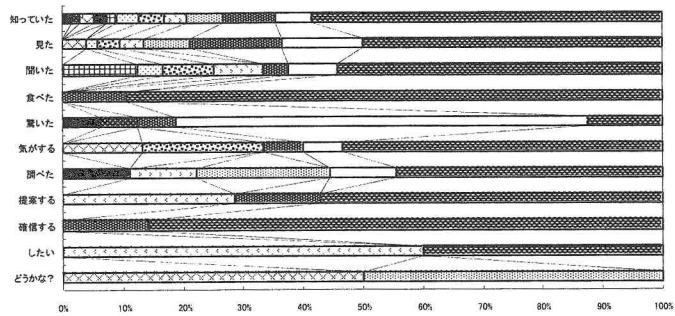


図 6 「捉え方」別に見たえとご情報の「感想・印象」の傾向

(7) 時代×感想・印象(図 7)

「過去」に向かうに従って「驚嘆」の割合が多く、逆に「現在」から「未来」に向かうに従って「願望」の割合が多いのが特徴的である。

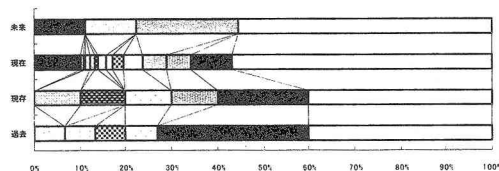


図 7 「時代」別に見たえとご情報の「感想・印象」の傾向

4.3 月別情報内容の変遷

会議室開設から6ヶ月余りの間の月別情報量に大差はなく、毎月100以上の情報が寄せられた。

(1) 捉え方の変遷(図 8)

会議室開設時は、「こんなものを知っている」といった既知の情報を出し合うことが多かった。しかし時間の経過とともに、「知っている」情報は徐々に減っていく。1月になって「知っている」情報量が増えたのはCの出現による部分が大い。続けて2月になるといわゆる「まちあるき」によって得られた珍しい風景を「見た」と示すことが多かった。

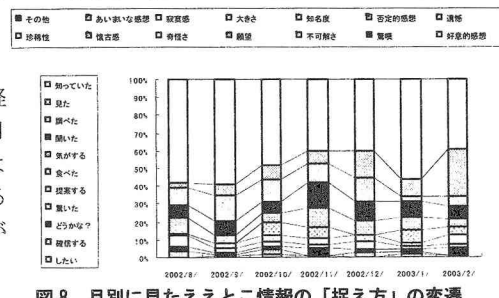


図 8 月別に見たえとご情報の「捉え方」の変遷

(2) 対象物の存在した「時代」の変遷(図 9)

10月に「現存」情報が多くなったのは、Bによって『写し巡礼』情報が一度に多数寄せられたからである。12月に多い「過去」の情報は、主に『土倉鉦山』関連のものと、オフ会で話題になった『遊郭』の情報が多かったためである。2月には、「カフェ列車を走らせれば面白い」といった話題や、合併の話題から「合併前市町村を忘れないための、県地図パズルを作ると面白い」といった、「未来」に提案する情報が多く寄せられた。

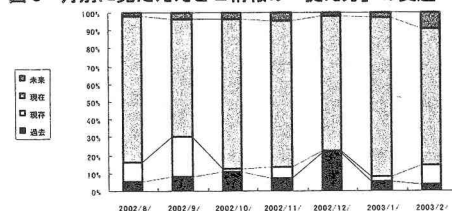


図 9 月別に見たえとご情報の存在する「時代」の変遷

(3) 感想・印象の変遷(図 10)

次第に「好意的感想」が増えていくのが特徴的である。10月の「その他」の感想や、12月の「驚嘆」の感想は、たまたま様々な情報が集まっただけであって、特徴的な傾向は見出せない。

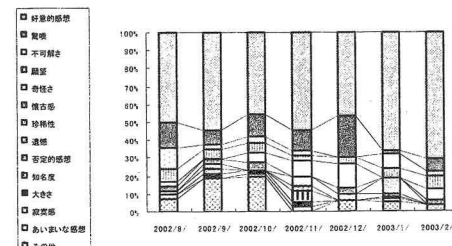


図 10 月別に見たえとご情報の「感想・印象」の変遷

4.4 分析結果のまとめ

オフ会の前や後に、特定の対象物の情報が一時的に増えるという現象がみられた。甲賀のオフ会で見えた『高師小僧』とたぬきの置物などの「創造物」、湖北の『土倉鉦山』、そして彦根の『佐和山遊園』等である。例えば『高師小僧』は、A の下記の発言から始まった。「E さんが地図を見て、こんなスポットを見つけましたよ。『高師小僧』…そういや、ちょっと前の『探偵ナイトスクープ』でもやってました。『小僧』みたいな石が愛知県のある地区でとれる、というもの。これが、な

んと水口でも取れる(とってはいけならしい)ということです。楽しみですわー。)(10月11日・A)この直後開催された甲賀地区のオフ会で、是非見つけようということになり、『高師小僧』に関する話題で盛り上がる。オフ会でこれを見つけないことができなかったが、その後もこの話題は継続された。「日野町役場の教育委員会社会教育課に訊ねました。『別所高師小僧』は、日野町字真窪 122 番地にあります。今は、整備された田んぼの中で、そこには、石柱が建っています。『高師小僧』は地中にあり見ることはできません。)(10月15日・G)

対象物の存在する(した)の時代区分や月別情報内容の変遷に大きな変化を与える原因となったものに、B による9月の『写し巡礼』を「調べた」情報と、C による1月の「知っていた」情報、2月の「まちの風景」を「見た」情報がある。グラフを見ると、彼らによって大量に情報が寄せられたために該当の区分が大きく変化している。

これら以外には、多少のばらつきはあるものの、特筆すべき情報量の区分別・月別増減はあまりない。ただ、全体的に眺めると、6ヶ月余りの会議を経て、話題が「過去回顧」から「未来提案」に徐々に変化していることは明らかである。

5. 情報の変遷

5.1 個別対象物に対する動き

ひとつの対象物に対して、発言者たちが情報を出し合う過程を考察するため、特色ある「情報フロー」に着目してみた。「情報フロー」とは、掲示板における同じ対象物に対する発言のかたまりを呼ぶ。

(1) 坂本(の〇〇)(情報量 6)(表 13)

坂本に住む D が、国宝の話、建物の話、城の話など他者の話題から関連づけて「坂本には〇〇がある」と投げかける。しかしこれらに関して情報を持つのは D しかいないため誰も反応しなかった(できなかった)。

(2) JR 余呉駅(情報量 6)(表 14)

5名の発言者によってこの駅のよさが述べられているが、それぞれが関連していない。

(3) 土倉鉦山(情報量 25)(表 15)

最初は「廃墟」の話題に関連して、廃墟に興味のある2名が発言したが、ここで話題は途切れる。11月に入り再燃したのはその数日前にオフ会が開催され、現場を訪れたことによる。加えてその近くで進められていた発電所建設が中止になるということで話題は次第に近代化遺産の終末のあり方の話題へ、そして、「湖北オフ会宿題ネタ」です。土倉鉦山が全盛期のときは、あそこから、金居原をとって、ふもとまで空中ロープウェイのようなもので鉦物を運んでいたとか。帰りは日用物資を入れていたという情報がありました。で、その跡としてのその柱(鉄柱)がいまでも残っている。

ん？どこの集落でしたっけ？どなたか御存知ないでしょうか？見てみたい。また、当時の空中索道の写真どなたか知りませんか？)(11/29・B)という投げかけは、特に地元の書き込み者を積極的な行動へ促す。彼らは地元の資料を調べたり、人に聞いたり、実際に探しに行ったりしてその報告を書き込んだ。これら情報から「一万枚ですか？これって土倉鉦山写真集できるじゃあないですかあ。)(12/4・B)とか「その寄付された鉦山の方は今でもご健在ですか？お話を聞いてみたいなあ。そんな講演会してもええですなあ。)(12/6・B)という提案が出てくる。年が明けて1月、「負の遺産」について議論されるスレッドが立ち上がり、Aが、「『負の遺産』は、これからの滋賀(あるいは地球全体)の将来を考える教材としてはいいと思うけど、教材ばかり増えても仕方ない。)(1/20・A)と述べると、「廃墟は僕にとっては負の遺産じゃなくて、正の遺産であると思ってます。)(1/20・H)という反応があり、ここでこの情報フローは終わる。

5.2 情報フローの分類

個別対象物に対して寄せられた情報フローは、おおまかに下記の4タイプに分類することができる(表 16)。

表 13 「坂本(の〇〇)」に関する情報フロー

つぶやき型	坂本には国宝や文化財が多い(8/30・D) 坂本の住居表示は茶色(8/30・D) 坂本郵便局は登録有形文化財(8/31・D) 坂本ケーブルの山頂駅(8/31・D) 合併で「坂本」や「阪本」ができた(8/31・D) 滋賀には1300もの城跡、坂本にもある(1/24・D)	投げかけ
-------	---	------

表 14 「JR 余呉駅」に関する情報フロー

つぶやき型	冬の寂しい映画に出てきそう(10/22・A)	投げかけ
野次馬型	いいかもしれない(10/22・I) ホームが片方しかない(10/28・S) しみじみ眺めてしまう(10/28・A) 上屋のない長いホーム(1/17・K) 国鉄の駅っていう風情(1/21・C)	反応

まず、「つぶやき型」には『坂本(の〇〇)』の情報フローがあてはまる。新規に対象物に対する発言がなされるが、その対象物に対する情報を他の者が持っていない、あるいは興味がないため、ほとんど反応がなく、1人で情報を出し続ける。ここで情報を持った者や興味を示した者が反応すると、「野次馬型」か「井戸端型」になる。前者は『JR 余呉駅』のほか『鮎寿司』や『屋号』など、県全域で知られているものが多い。後者は『高師小僧』『佐和山遊園』『サファリ博物館』など、よくわからないもので、参加者同士で「どういもののか?」をあれこれ詮索しあう。その結果、その対象物やそれを取り巻く環境について思いや提案が出てくるのが「探求型」である。『土倉鉱山』における写真集や講演会の提案がこれにあたる。

5.3 情報フローの変遷のまとめ

始まりは全て「つぶやき型」から始まる。個別対象物に対して多くの情報収集という点では、様々な情報が出てくる「野次馬型」に至るのがいいように思えるが、話題に進展性がなく、会議参加者の意識に深く浸透していかない。「よく知られているもの」がこのタイプに多いということは、これらが謎や疑問点、問題点など解決したいと思わせることを内在させていないためといえる。

その点、「井戸端型」に進化する「よくわからないもの」や「あまり知られていないもの」は、「野次馬型」とは逆に、発言者たちの探究心をそそる。そして、対象物に対する思い入れが深まれば、さらに理解・解明しようとする「探求型」に至るのである。「こうあってほしい」という思いから「ではそのためにはどうすればいいか」といった思いに派生したり、対象物の一部分に注目してその話題で盛り上がるなど、新たな話題に転換していくことも多い。

この会議室で「よくわからないもの」に関する情報が多く寄せられたのは、「よく知られているもの」が「野次馬型」で終わってしまうのに対して、「よくわからないもの」は、「投げかけ型」→「井戸端型」→「探求型」というより多くの段階を経たためといえよう。

表 15 「土倉鉱山」に関する情報フロー

つぶやき型	投げかけ
鉱山住宅が残っている? (8/20・B) 靴が落ちていたりした (8/20・A)	
井戸端型	理解
徐々に廃墟らしくなってきた (11/18・A) ずいぶん山奥 (11/20・U) 近くの発電所建設が中止になったけど、どうなるのか? (11/20・B) 発電所建設のための橋脚も廃墟に? (11/20・A) 役目を終えた施設は歴史を伝える貴重な建築 (11/21・U) 生態学的に、あるいはエントロピーの法則を照らし合わせたらどうか? (11/21・A) 生態学的にも遺産になりうる (11/21・H) 無秩序が無秩序を作ることが不安 (11/21・A) 空中索道はロープウェイのようなもの (11/29・B) 鉄柱があったのは川合や杉野? (11/29・A) 空中索道を走るロープウェイから輝く石がよく落ちてきた (12/2・A) 空中索道は 13 キロ (12/2・B) 現在 50 歳以上の人は知っているらしい (12/2・I) 鉄柱は残っていない (12/2・A) 近代的浮遊鉱選場 (12/2・B) 使い道は? (12/3・I) 写真が残っている? (12/4・A)	
探求型	提案 思い
写真集ができる? (12/4・B) 生き証人が残っているなら講演会をしてもらおう (12/6・B) 未来を考える負の遺産では? (1/20・A) 「退き際」を考えなければ (1/20・B) 「廃墟から見た滋賀の未来」は? (1/20・A) 廃墟は正の遺産 (1/20・H)	

表 16 情報フロー分類とその説明

つぶやき型	新しい対象物に対する最初の発言。投げかけ。
野次馬型	投げかけに対する反応。既知の情報が多い。一方通行的。
井戸端型	理解しようと、問答が繰り返される。
探求型	深く考え、提案や思いが語られる。話題が転換することもある。

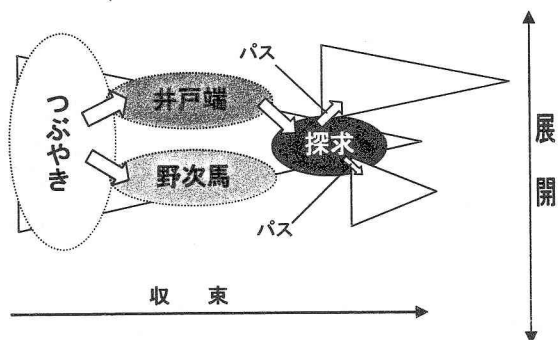


図 11 情報フローの変遷

6. まとめ

この会議室で集まった「ええとこ情報」には、発言者の趣向、間違い、偏り、思い込み、思いつきによる発

言などが多く含まれているため、網羅的なデータ収集システムとはなりえない。

しかし、例えば『赤こんにやく』に関する次の書き込みに注目してみたい。「赤のこんにやくは、あたしもおどろきましたよ。でも、湖西ではあまり使わないのもおもしろいですね。あれは『ヒガシの食べ物』とでもいうようなんでしょうかね。姑が生前使った記憶はありませんのよ。あのこんにやくは信長が『赤』が好きだったって事もいわれているようです。彦根の井伊さんも『赤』がお好きなのでしょう。」(8月19日・D)『赤こんにやく』がどこでどうしてできたものかなどの基本的な情報は入っていないが、「おどろく」赤色をした「ヒガシの食べ物」で、「湖西地方では昔は食べていなかった」などの情報を読み取ることができる。赤こんにやくを知らない人は「いったいどんな食べ物なのだろう」と深く興味を持つはずである。

このような情報は、脳に単なる「知識」として集積されるものでなく、人間の心身に働きかけて、それを楽しませ喜ばせ、珍しがらせ面白がらせる情報「マッサージ情報」⁵といえる。既存の観光情報が、画一的でなだらかな「メッセージ情報」主体であるのに対して、各発言者のさまざまな視点で捉えた「マッサージ情報」が主体である「ええとこ情報」は、網羅的な観光情報の平板性を部分的に補完する役割を果たしていると思われる。特に人を惹きつける作用のある情報がうまく集まれば、それらを媒体として、例えば『土倉鉾山』情報フロアにおける写真集や講演会の提案や、『琵琶湖博覧会』から「顔出し看板」への話題転換のような、新たな発想・行動への道筋ができる。「顔出し看板」に関しては、3月になると、「県内所在地リスト作成」や「看板作成コンクール開催」という提案が出され、実際に動き始めている。「地域資源」に目を向けさせる「ええとこ」会議室の実践は、住民参画システムのアプローチとして評価できよう。

このような会議室を用いて、結果的に住民がまちへ目を向き、参画への意識づけをはぐむためには、「世話人の役割」が重要である。世話人に大切なのは、話題の中から次の展開へと導くことのできる素材を見つけ出し、あたかもラグビーのボールをパスするかのよう、次の展開に持っていくことである。情報があいまいで偏りがあっても、大切なのは、この会議室にかかわる人の視線を常につなげておくことである。そのためには、例えば「土倉鉾山の空中索道はどんなものだったか？」などといった疑問形式の投げかけが有効で、「ネット上の愛他主義」⁶の働いた発言者がそれに追随してくる。発言したくなる投げかけを待っている参加者の趣向は様々であるから、ボールはひとつではなく、常に数個投げ続けられている状態が理想的といえる。

世話人のこのような意識的な誘導により、発言活動をより深く意識づけられ、お互いの発言に刺激されながら「収束」→「展開」のパターンを続けるうちに、その対象物、すなわち「地域資源」の核心部分に内在する「謎」や「問題点」の近くに到達、模索し、その解明や改善、利用方法などを自発的に提案できる主体を少しでも多く生み出すことが、このような会議室の役割であるといえよう。

しかしながら、電子会議システムの歴史は浅いうえ、インターネット利用者のうち特定の電子会議に常時参加しようとする者はまだごく少数である。今後こうした電子会議が、まちづくりの一翼を担うようになるためには、さらに多くの住民が参加・発言できるための環境づくりと、実際に多くの参加者が集まったときに対応し得る世話人の資質の向上など、運営システムの充実が必要であると考える。

注および参考文献

¹ e〜まち滋賀2002 インターネット政策広場 <http://cgi.emachi.jp/>

² (財)滋賀総合研究所；e〜まち滋賀活動レポート2001，2002.3

³ 「オン会」とは、この会議室独自の会議形態。世話人が予め開催日時を告知、時間を制限して実施する擬似的なチャット形式の会議

⁴ 古田陽久監修；誇れる郷土ガイド―近畿編一，シンクタンクセとうち総合研究機構，pp13―16，2001

⁵ 高田公理著；情報快樂都市，学芸出版社，p180，1991

⁶ Patricia Wallace 著，川浦康至＋貝塚泉訳；インターネットの心理学，NTT 出版，pp239―259，2001